

## 創設 55 周年を迎えて

社会福祉法人創樹会 理事長 西山堅太郎

福山六方学園創設 55 周年を迎えるにあたってごあいさつ申し上げます。

創設以来 55 年にもわたって社会福祉法人創樹会・福山六方学園がありますのは、広島県、福山市などの行政関係機関をはじめ多くのご支援くださるみなさまや創樹会の事業を快く活用してくださる障害のある方ご本人とご家族のみなさまのお蔭だと深く感謝申し上げます。

平成 21 (2009)年 9 月に創設 50 周年を終え、瞬く間に 55 周年を迎えることとなりました。この間、障害福祉の分野では、障害者自立支援法から障害者総合支援法となり、三障害一元化に象徴されるように制度のうえでも、福祉現場でも障害のある人たちのわけ隔てのない人としての尊厳と権利擁護に向けた新しく大きなうねりが生じています。

昭和 34(1959)年 10 月、福山市水呑町の山あいにも 10 数名のこどもたちを迎え誕生した福山六方学園が、平成 3(1991)年には社会福祉法人創樹会へと衣を改め、障害のある人たちの総合福祉施設を目指して歩んでまいりました。また、創設 50 周年を機会に掲げた「みんなダイヤモンド」の気風づくりが一人一人の法人スタッフによって大切にされ、一つ一つの命の輝きを見つめる細やかな営みを続けています。その一つが新設された ONE・すてっぷを中心にしたおさなごたちの療育活動であり、いま一つが鞆の津ミュージアムのアール・ブリュットを中心とした芸術文化活動でもあります。

また、高度できめ細やかな支援を必要とする養護性の高い子供たちの心のケアと強度な行動障害への視点と支援が求められる福山六方学園(児童施設)、年齢を重ね様々な課題を抱えながら最後のステージに向かう人たちの終の棲家と地域生活に向けたグループホーム建設など、人生を支える住み家を模索するあゆみ苑成人寮とサポートセンター友の家やさわらびがあります。

そして、従来の受託作業に加え農作物の生産や菓子作り、Cafe 運営など新たな取り組みを模索し、社会人としての就労や経済活動を支えるさくらの営みや障害のある人たちの地域生活実現に向け急増する相談支援とホームヘルプへの多様なニーズの増加など大きな課題や現実があります。

今日、ここに創設 55 周年という節目を迎えるに当たり、「みんなダイヤモンド」の思いを旨に、「生き活きと生きる人たちを心を込めて大切にする“福六の心”」と故田中了諦園長の言葉「ハングリーな心を忘れず、弾力を持ってことに臨む」気概を大切に、役職員ともども激動する障害福祉の環境の中で独自の「嬉しいサービス」を組み立てながら創設 60 周年に向け果敢に挑戦してまいります。

みなさま方のいっそうのご指導とご支援をお願いしてやみません。